

講演 2

不況下の中国の食品流通の変化と課題

中国人民大学 商学院
教授 馬 龍 龍

講師略歴

1952年中国北京生まれ。1987年中国人民大学大学院経済学専攻修士課程修了。1996年経済学博士取得。1987年から現在まで人民大学貿易経済教育研究室主任、貿易経済系主任など歴任。主要研究領域は、市場構造と流通政策、物流学、商業論など。中国商業経済学会副会長、中国大学商業経済教育学会副会長、北京市、浙江省、江蘇省、広東省の流通及び貿易発展顧問、遼寧省遼陽市科学技術発展顧問など。

学長先生、学部長先生、皆さま、こんにちは。今回、貴重な機会をいただきまして、非常に光栄だと思っています。中村学園大学関係の先生方、皆さまに、非常に感謝を申し上げたいと思っています。

それでは依頼のあったテーマに沿って、皆さまと一緒にこの不況下の食品安全に関する中国の対応についてお話をしたいと思います。それをもって皆さんと交流を、ぜひさせていただきたいと思っています。

食品安全の問題は国際的な問題でありまして、先進国にも途上国にも存在していると思います。中国には「民は食をもって天となし、食はまずもって安全となす」という言い方があります。食品安全は国民がもっとも関心を持っている問題でもあり、直接的かつ、現実的な問題です。さらに、食品安全問題は国民の生命と健康、および社会の安定に密接な関係を有しております。

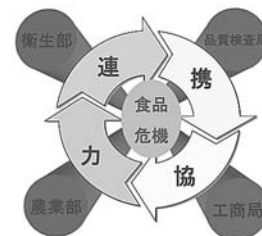
ご存知のように、金融危機以降、中国にも幾度も食品安全問題、あるいは食品安全事件と申しましょうか、そういうことも確かにありました。われわれもこういった悲惨な経験、あるいは重大な事件に関しては、非常に残念だと考えております。そういった問題の重大さを認識して、中国はすでに国を挙げて、政府、民間も一

緒にこの問題に対して解決しようという態勢に入っています。

中国の食品安全の問題に関しては、関連の省庁、具体的には衛生省、農業省、品質検査総局、工商総局などが連携協力して、一緒にこの問題について解決しようとしております。



中国政府は如何に食品安全危機に対応するか



スライド 1

ご存知のように、中国の内需拡大の方法としてはおよそ日本円にして、57兆円の資金投入を実際にやっております。そのなかで300億元、およそ4,500億円の資金を商務部に与えております。そのなかの3分の1、およそ1,500億円に関しては、専門的に食品安全問題の予算として使われる予定になっています。

現在、金融危機下の食品安全問題に対応して、中国政府の措置としては次の3点が挙げられます。

第1は食品安全のトレーサビリティシステムの構築と完備・完全化です。第2は卸売市場の規格化、標準化の推進です。これは非常に多い項目に関わる部分です。第3は農業生産の標準化の強力な推進です。これは生産の源からコントロールしようという動きでありまして、非常に高度化が求められる仕事です。



中国政府は如何に食品安全危機に対応するか

三大対応策:

- ☆トレーサビリティシステムの構築と完備 → 多段階
- ☆卸売市場の規格化と標準化の推進 → 多項目
- ☆農業生産標準化の強力な推進 → 高度化

スライド2

まず、中国においては、食品安全のトレーサビリティシステムの構築と完全化に関しては、できるだけ世界の高いレベルの基準を導入しようということで、先ほども紹介がありましたように、先進的な世界基準を導入しています。中国では国際標準標識システムといいまして、実際にはUCC、あるいはEANバーコードシステム、中国ではANCCシステムと呼ばれるものです。

このシステムは2つの部分がありまして、1つは川上から川下への追跡です。すなわち、農場、食品原材料の供給者から加工業者、運送業者、販売業者、あるいはPOS販売店までの流れのなかで、主に品質問題の発生原因を見つける場合や、食品の原産地の確認、あるいは特徴の確認をするためのものです。

もう1つは、川下から川上への追跡です。つ

まり消費者はPOS販売店で購入した商品に関して安全問題が発生した場合には、この川上の各段階を追跡して、最終的には問題の原因を突き止めるということです。ですので、このシステムは主に問題商品の回収、あるいは販売中止をするときに使われます。1つ象徴的な例を挙げますと、今中国では豚肉の一切れに関して、もし問題が発生した場合は、このシステムを使って、最終的にはこの豚肉の産地、あるいは生産環境、生産履歴がすべて、この追跡によってわかることになるということです。



一、トレーサビリティシステムの構築と完備

バーコードと
RFID技術との
結合



§川上から川下への追跡:農場・食品原材料の供給者——加工業者——運送業者——販売業者——POS販売店、主に品質問題の発生原因を見つけ、商品の原産地と特徴を確認するためである。
§川下から川上への追跡:消費者はPOS販売店で買った食品に安全問題が発生した場合、川上への各段階へ追跡し、最終的には問題の原因を突き止める。これは、主に問題商品の回収と販売の中止のためである。

スライド3

先ほど、甲斐先生の紹介にありましたが、北京市も同様に野菜の品質安全トレーサビリティシステムを導入しまして、すでに稼動し始めました。そのシステムについては、野菜に関しては生産地から加工企業、それから小売りへとすべての過程の品質管理が追跡可能である。消費者はこの商品のバーコードをスーパーの店頭で設置されている端末にかざすと、スクリーンで農産物の名称、生産地、あるいは生産履歴などの情報が即座にその場で映し出されて、わかるようになります。さらに、詳しいデータとしては、この野菜の栽培の場所、ハウスの具体的な位置や農薬をまく回数、水をやる回数までわかるようになります。

北京では、トレーサビリティシステムの先頭になっている情報検索プラットフォームがあり

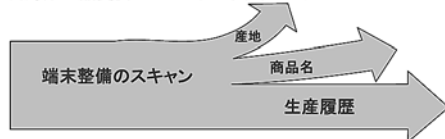
まして、そのシステムを使いましたら、だいたい30分以内に7万社の食品企業に情報を伝えられるようになっていきます。



一、トレーサビリティ・システムの構築と完備

北京市:

☆野菜の品質安全トレーサビリティシステム



☆農産物安全リスクのプリアラームメカニズム: 情報は30分以内に7万社の食品企業に伝えることが可能。

スライド4

上海市の状況を紹介させていただくと、上海市に関してはすべての牧場に関して、ブタ、ウシ、ヒツジの生産記録書というものを作成し、生産周期の全過程をモニタリングできます。例えば、飼育環境が汚染のない自然環境であるかどうか、あるいは水、土壌、空気などの指数が標準に達しているかどうか。飼料は何であるか。あるいは農薬残留添加剤などの汚染はあるかどうかについては、すべてモニタリングできます。

なお、北京、上海のほかには、山東省、天津市、福建省、河南省にもトレーサビリティシステムコード、それからRFIDなどの技術と一緒に使いまして、すでにトレーサビリティシステムの構築に着手して、非常に今スムーズに進行しています。

以上が1番目の部分ですけれども、次に2番目の卸売市場の規格化、標準化の推進について、お話をさせていただきます。

卸売市場は中国にとって、現在および今後の長い間の期間においては、主な流通チャネルになっていると思います。現在、中国の卸売市場の経由率は66%から70%前後になっています。この卸売市場は、大部分の農産物は必ず経由する流通段階でもありまして、非常に重要な段階

という認識をわれわれは持っています。

中国国家発展改革委員会、国家商務部、国家農業部の支援のもとに、中国のおよそ300カ所の卸売市場は、すでに情報と品質検査システム、品質安全追跡システム、環境保護システム、市場取引所などの公益施設、コールドチェーンシステム、生鮮農産物配送用の倉庫・施設などの建設を完成させました。それらによって卸売市場は全面的なレベルアップが実現でき、食品安全水準を高め、よりよく都市と農村の住民の健康を守っていると思われます。ほとんどの卸売市場に関しては、検査体制が1日24時間体制、随時検査対応となっています。

このスライドは北京の新発地青果卸売市場、北京の大型卸売市場の石門卸売市場、上海市の標準化菜市場の写真を載せています。実際、こういったところは、すでに先ほど申し上げましたような標準化、規格化をしております。今回、実際に2カ所のDVDも持ってきたのですが、時間の関係でおそらく講演中は放送できませんけれども、どうしても興味のある方は、この会が終わったあとでも言っていただければ提供することができると思います。



二、卸売市場の規格化と標準化の推進

情報と品質検査システム、品質安全追跡システム、環境保護システム、市場取引所、コールドチェーンシステム、生鮮農産物配送施設などの建設を完成させ、食品の安全水準を高めた。

北京新発地青果卸売市場:

電子ゲート支払システムを通して、検査不合格商品や残留農薬基準値を超える野菜を市場外に。迅速検査機を使えば、最短35分で問題の野菜を検出することができる



スライド5



二、卸売市場の規格化と標準化の推進

北京新発地青果卸売市場

生鮮食肉の入荷に関しては、同市場ではICカードを導入、カードには屠畜、小売などの各過程でさらに情報が付け加えられ、最終的に消費者に販売する精肉にはバーコードが貼り付けられている。問題の肉の流入を断ち切る。



スライド 6



二、卸売市場の規格化と標準化の推進

上海標準化菜市场：



スライド 7



二、卸売市場の規格化と標準化の推進

上海標準化菜市场：



スライド 8

3 番目に、農業生産の標準化についてお話をさせていただきます。金融危機の発生と拡大によって、農業生産、食品加工および流通過程においては、投機的な行動が増え、食品安全リス

クの発生率が高まったと見られています。

最近、中国の政府、各省庁は、この農業生産の組織化・新農村政策を発表し、大変にこういったところに力を入れております。この組織化あるいは農産物流通の建設という部分に関しては、非常に新しいモデルが導入されまして、つまりブランドプラス企業、プラス生産基地、最後にプラス農家というモデルが、産業化経営モデルとして全面的に推進されています。

具体的には、今まで分散化していた農家を組織して、できるだけ個々の農家の生産を避け、組織化した組織の提供をできるようにするという考えです。当然そこでは農業に関する研究機関の参加も考えています。ですので、この何年間の経験からみれば、こういった農産物の生産に関しては、一定の成果を上げたと考えています。



三、農業生産標準化の推進

「会社＋生産基地＋農家」の産業化経営モデルの育成

食品安全モニタリングシステムを構築する

農家と安全契約を交わす

農家に会社が作成した管理コードを与える

安全問題の追跡を可能にする

スライド 9

当然、金融危機も効果としては、農業生産の投入、農家の支援という部分では、逆に政府から資金を引き出せたというきっかけになったと思います。もちろん、金融危機のもう一つの影響としては、先に述べてきた個々の措置によって、この誘発される食品安全危機は、食品の生産コスト増加につながりますので、商品価格に反映されて価格上昇になりかねないということもあると思います。また、多くの消費者は価格の変動に敏感でありまして、非正規の流通チャ

ネルから商品を購入することも考えられます。そうすると、当然食品安全にかかわる監督、管理の難しさが増え、あるいはコストがさらに増えることになります。

従いまして、金融危機下の食品安全問題に対応するには、中国の政府、企業、消費者の協力が必要です。こういった問題は中国だけではなく、世界各国にも共通することだろうと思います。これらの問題に関しては、いろいろな日本の経験、あるいは方法というものも中国にとっては有効でありまして、考えられると思っております。

最後になりましたが、今日いらしている皆さんにも、もちろん政府との関係もありますけれども、金融危機による食品流通安全問題に対して協力し、対応していただくことを私の願いとして申し上げたいと考えております。以上で終わります。

(第Ⅱ部講演：終了)



四、終わり

食品安全問題は消費者の命や健康に関わる問題である。
しかし、消費者の価格へ敏感さは、食品安全への管理の
難しさとコストを高める。

金融危機がもたらす食品安全の問題に有効に対応する
ためには、中国政府の協力、消費者の自衛、自己管理な
どが必要である。

スライド10